

ディアコニア



説教

「何ゆえに私たちは喜べるか」

—ルカによる福音書10章20節—

齋藤 篤

日本基督教団 深沢教会牧師

私の手元に、大切にしている1枚の写

真があります。2000年2月、私が洗

礼を受けてクリスチャンになった時の記

念写真です。この写真を時折眺めては、

神と共に歩む生活をスタートさせた頃の

新鮮な気持ち进行い起こします。クリス

チャンであるならば、誰でも持つている

喜びの記憶なのではないでしょうか。

神を信じ、神と共に歩む喜びというも

のは、私たちの生活に潤いを与えます。

日々のあらゆる出来事、ほんのささいな

ことでも神に感謝できるのです。おのず

と心が豊かにされていくことを実感でき

るのです。

その一方、私たちは神を信じる喜びが
持続されることを希望しながらも、そう

ならないことも多くあります。私たちの

心には「波」が存在します。その波に浮

き沈む舟のように、私たちはあらゆる出

来事に遭遇しながら、時には喜び、そし

て時には心沈むこともあるのです。心沈

む時、神に祈りを紡ぎ続けても答えが与

えられない時、私たちは神を信じている

ことすら、疑いを差し挟んでしまうほど、

弱り果ててしまうこともあるでしょう。

主イエスから宣教の派遣を受けた72人

の弟子たちは、方々の村や町に入って主

の福音を宣べ伝え始めました。主イエス

の権威によって力を受けた弟子たちは、

言葉と行いによって病を癒し、悪霊を屈

服させることができました。この力によって、

多くの人々が主を信じる喜びを得ること

ができたのですから、弟子たちは喜びを

大いに共有したに違いありません。

弟子たちは嬉々として主イエスのもと

に戻り、そして報告しました。「主よ、お

名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに

屈服します」(10・17)。それは弟子たち

にとっても、神と共に歩む喜びを実感し

たひと時だったのです。

しかし、そんな弟子たちの反応に「褒

め返し」をしなかったのが主イエスでし

た。「しかし、悪霊があなたがたに服従

するからといって、喜んでほならない」

(10・20)。まるで弟子たちの信仰の喜び

に水を差しているようにも見える主イエ

スの言葉です。

ただ、主イエスは続いてこのようにも

語られました。「むしろ、あなたがたの

名が天に書き記されていることを喜びな

さい」(10・20)。主イエスは「何ゆえに

私たちは喜べるか」、その根拠を明確に

弟子たちに示されたのです。この主の言

葉に、私たちもまた耳と心を傾けたいの

です。

私たちは神を信じる喜びを味わう時、

その多くは、日々の出来事の中での体験

や経験を通して感じます。宣教の現場へ

派遣された72人の弟子たちもそうでした。

「悪霊を追い出す」という具体的な行動に

よって、多くの人々を癒すことができました。

それが彼らにとつての喜びでした。

そこで大切なのは、私たちにとつて喜

びの源となる出来事や行いに出会える時は良いとして、その逆の状況に自分自身の身を置かなければならなかった時に、さて私たちはどうするか、ということです。具体的に言えば、神と共に歩む喜びをどうしても感じることでできない、そんな感情が私たちを襲う時、では私たちは何によって喜びを得るのでしょうか。

そこで主イエスは、世の中や私たちの身にどんな変化が起ころうとも、決して変わることはない事実を提示されました。それが「あなたがたの名が天に書き記されている」という一言に集約されています。名前が天に記されているとは、神による命の救いを表す言葉でした。それも消しゴムで簡単に消える文字ではありません。決して色あせないインクで、石に刻み込むように私たちの名前が、神によって書き刻まれているのです。神は私たちを決して忘れることなく、救いの席に招き入れてくださっているのです。このことゆえに喜びなさいと、主イエスは弟子たち、そして私たちにお語りになりました。

弟子たちが追い出せたと喜んでいた悪霊の存在に、私たちは注目することができます。悪霊を操る悪魔の目的は、如何に人間を神から引き離すことができるかというただ一点にありました。そのためならば、人間の喜びをも巧みに利用するのが悪霊の成せる仕業です。ある時には悪霊を追い出す力が主イエスの權威によって実現できたとしても、それをあたかも超能力者になったが如く、自分自身の能力によって成し遂げられたと勘違いし、過信するならば、簡単に悪の逆襲に遭い、主を信じる喜びから弟子たちは引き離されてしまうでしょう。主イエスは、そのことを弟子たちに気付いて欲しかったのです。

そして主イエスは、悪霊と対極をなす豊かな力によって喜びにあふれました。それは聖霊の力によつてです。聖霊にあふれた主イエスは弟子たちに告げられました。「あなたがたの見えるものを見る目は幸いだ」(20・23)。

聖霊なる神の力は、私たちがその場その時に出会い、見ることでできる視覚と

は次元の違う視力を、私たちに与えます。その視力を通して、私たちは決して変わることはない、主イエスの十字架の贖いと復活による命の救いを観ることができのです。これは疑い迷いの渦中に私たちがあつたとしても、私たちを既に救ってくださったという事実が、神の記憶の中に留められているという聖書の言葉とともに、私たちの心を安らかなものへ導いてくださるのです。

話は最初に戻りますが、私は洗礼を受けて16年が経ちました。その間、牧師としての務めが神から与えられました。その期間、常に喜べたわけではありません。時には自分に降りかかった出来事を憂い、神に怒りをぶつけたことも多々ありました。しかし、今こうして神と共に歩む喜びを味わいながら、牧師として歩み続けることができます。これは経験の蓄積でも私の能力ゆえでもありません。ただただ、聖霊なる神が私に喜びを観る視力を与え続けてくださったからなのです。

ディアコニアの原点④

人もし我に來たりて、

その父母妻子兄弟姉妹、己が生命までも憎まずば、我が弟子となるを得ず

——ルカ14：26

イエスは主なり、キリストなり——と何気なく申しますが、おもえばこれは天地がひっくりかえるような文章であります。イエスを主とすることは、したがって私がその僕となるということは、まったくき服従を意味し、イエスをキリストすなわち油そそがれたまいし王とすることは、その統治に服する数多くの臣下がいならばことを予想するからであります。自分がいつも主人であったり、救いが自己のうちにのみ止まっているあいだは、誰もこの信仰告白を口にする資格がありません。

基督者という呼び名がどんなに怖いものであるか、彼の弟子となることか、どんなに苦しいものであるか、ここに掲げ

られた聖句が示しています。主は〈憎む〉とまで言いたまいます。あの何人をも憎んではならないといたもうた彼が……。彼の専売特許である〈愛〉とこの〈憎〉とはどう関係するのでありましょうか？

では、この言葉の著者が如何に憎んだか、その物語に耳をかたむけましょう。

イエスは父をはやく失い、母は少なくとも7人の子女をかかえて寡婦となりました。一介の労働者の家に何があつたでしょう？ イエスは母をたすけて必死に働き、いつしか30という齢をかぞえていました。



裸なのを見て着せ

やつと最年少の同胞がひとりだちするようになったとき、彼は新しい決意をし

て家を出ました。母もこれをゆるしたてありましょう。けれども、その志した伝道が一大困難に逢着したとき、マリヤはその子らとともにイエスを引取りにきました。イエスは狂気であると噂されたからであります。

この温かい肉親のおもいやりに、イエスの心は危うくくづれそうになりました。平和なナザレの村が待っていました。それなのに彼はうそぶくもののように言いました。「私に母があつたか？ 私に兄弟があつた？ わたしには君たちのほかに母もなければ兄弟もない」と（マルコ3：20～35）。

不孝な子でした。不実な兄でした。人情味のうすい冷たい人間とおもわれしました。けれども彼は悔いませんでした。とうとう一生涯なつかしいナザレを見せませんでした。彼はそのまま受刑者として果てました。母親に一言の挨拶もせず……。けれども一度すてられたものが再びひろいあげられました。憎みしりぞけたものは、その腕にもどされました。己

エマオ近況報告

佐々木 清

かにた作業所エマオ施設長

開所二年を過ぎた「かにた作業所エマオ」からの報告です。

先日、レクリエーションとして「館山ヤングボウル」へ行ってきました。慣れた感じでボールを選びタイミング良く投げる方もいれば、全く初めてでボールの穴に指を入れることも知らない方まで、千差万別。年齢も十八歳から六十五歳まで、老若男女入り乱れてのボウリング大会です。得点も五十点代から百四十点超まで。皆楽しそうにボールを投げていました。予約したボウリング場のレーンは四レーン。全てキッズレーン対応で、レーンの両側の溝の上に金属製のバーが出てきて、ボールがガーターへ落ちないようにになっています。

お昼ごはんは、皆揃って近くのシヨツピングセンターでお弁当やらサンドイッチ、ハンバーガー、ピザ、若鳥の唐揚げ、

割引になったサラダ、冷やっこなどそれぞれの好みで選び、この時とばかりに好きなものを好きなだけ(各人の予算内で)選び、食のバランス等気にしない方もありますし、しっかりと野菜やたんぱく質でんぶん質と選ぶ方(利用者さんの中に)もいました。



食べた

場所は、館山中央公園の真ん中の白いテラス席。少し風があつて涼しく気持ちの良いランチャイムでした。

皆でお昼ごはんを食べていると、公園のあちこちの入り口から、六十歳代後半から八十歳位?の団体が、長いケースを肩から掛けて五十mほど離れた所に集まっ

てきました。公園内のあちこちに旗を立て、たまにはメジャーで距離を測ったり。何が始まるのかと思っていたら、「グラウンドゴルフ大会」の準備、開会式でした。かにた婦人の村の運動会のようにでしたが、平均年齢はこちらの方の方が少し上かな?。でもエマオの利用者さん達はかにた婦人の村の運動会に参加させていただき、運動会慣れしたのか応援はとても上手でした。タイミングも良く声がかかるので、老人会の参加者さん達からも手を挙げて、お礼の合図が返ってきます。見ていると、上手な方もいれば、なかなか遠くへ飛ばせない方等。エマオの利用者さん達は弱い者の味方です。何度か回っていると、「おばあちゃんががんばれー」と特定の方に応援が集中できます。利用者さん達に「やってみたいですか?」と聞くとなんか手が挙げて、「やってみたい」と言う。いつか道具を揃えて、「エマオ大グラウンドゴルフ大会」がバザーのための駐車場を会場に開催できないかな? などと思いました。

見ていただけですが、たのしい時間が

過ごせました。エマオに帰ってからは特別賞授与式。順位でも得点でもなく、何か特別な事が有った人、ギターが有った人とかスプリットが多かった人とか。商品は、一ルジュエースやボトルコーヒー・紅茶、缶コーヒー等ほぼ全員に何



か商品が渡りました。

次の週は、「古布市」。たんぼぼホールを借りて二日間の開催。古くなった和服が多くなり、処分のつもりで少し安くし

てたくさん並べました。一日目の朝は、小雨模様でしたが駐車場には三十台近くの利用車が駐車し、想ったより盛況でした。来客は高齢者が多く、お話しながらゆつくりと和服、帯等見て下さいました。地元の呉服屋さんで生まれ育った方なども来て下さり、いろいろ情報を下さいました。ちなみに、私に大島紬の良し悪しの見方を教えて下さったのは、この方のお母さんです。

エマオ開所二年目、去年はボランテイアさん達とお茶会をしました。今年はかいた教会の勝亦牧師の紹介で、懇親会とヘルマンハープコンサートを開催いたしました。父母や管理者の世話人の参加は少数でしたが、午後のヘルマンハープコンサートにはかいた婦人の村の入所者の皆様も参加して下さいとても盛況でした。

ヘルマンハープは二十五本の弦を指で弾いて音を出す、見た目も演奏法もとても単純ですが、楽器から発せられるその音色は優しく『ハープ』そのものでした。木目の整った共鳴板で増幅された音色は、

かいた婦人の村のたんぼぼホールいっぴいに、優しい音を響かせました。第一部は曲の演奏、第二部は参加者皆も加わって合唱。第三部は体験。最初は緊張して聞いていた方達も、第二部になると声を出して歌い、誰かの『お得意な曲』が始まるとその方の方を向いてにこにこ。立って歌えと無言の後押し。第三部の体験になる頃には、皆緊張も解けて前に準備されたヘルマンハープの前に黒だかり。二度も三度も体験する方もいました。エ

マオの利用者で後ろの方でじつと聞いていた方のところへは、出前講座のように、ヘルマンハープが出張して行き触ってもらっていました。利用者さん達の感想は、「初めてだけど楽しかった」とか、「きれいな音が出た」とか、「こんなのが欲しい」という感想、希望もありました。

自閉症で「アー！」と声の出る利用者さんも、一時間以上じつと聞いていらっしゃいましたし、安心していられる場所だったのだらうと思います。

今秋にも、何か楽しいことが出来たら良いなーと思いました。

秋山ちえ子先生

ありがとうございました

天羽道子

去る4月6日、99歳で亡くなられた秋山ちえ子先生の「お別れの会」が、6月6日、日比谷松本楼で催され、改めて先生のお働きの大きさとその基となる確固たる信念に触れて、心打たれました。

日本の女性放送ジャーナリストの草分けとして活躍され、殊にTBSラジオの「秋山ちえ子の談話室」は、1957年開始から2002年終了までの45年間の放送回数が1万2512回ということに、まず圧倒されました。この中で、かにたの話題も、応援歌のように繰り返し取り上げていただきました。

「秋山ちえ子さんはいつも二つのことを大切にしたいとおっしゃっていました。ひとつは『障害者らの弱い立場の人が置き去りにされない社会をつくること』、もうひとつは『戦争をしないこと』。毎年

終戦記念日には「かわいそうなぞう」を朗読され、一貫して戦争の悲惨さを訴え続けてこられました。もうその声を聞くことはできませんが、秋山ちえ子さんの蒔き続けた種は、これからも人々の心の中で花を咲かせ続けることでしょう」との河野洋平氏をはじめとする発起人ご一同のご挨拶に深く感銘を受けました。

式の終わりに、2002年8月15日放送の「かわいそうなぞう」の朗読を聞かせてくださいました。そのお声は、込められたお心そのもので心に響きました。

秋山ちえ子先生が、かにた婦人の村に寄せてくださったご支援は、かにた創立前に遡ります。

〈1〉1963年11月「コロナーへの参加」というパンフレットにお名を連ねてコロナー建設募金への参加を呼びかけてくださいました。

〈2〉創設11年後の「特別養護棟建設募金」運動は、「秋山ちえ子の談話室」での紹介から始まりました。1976年12月15、16日と翌年1月15、16日の世田谷ボ

ロ市に、「街かどの福祉」という看板を掲げてチャリティーバザーを開催。また、千葉銀行館山支店会議室での講演「街かどの福祉」で、福祉に参加するよう呼びかけてくださり、市内16団体の協力を得て、館山市民センターでチャリティーバザーを開催してくださいました。

〈3〉1982年6月、山の会堂建設資金として一老婦人より莫大な遺産をいただきましたが、この方は「秋山ちえ子談話室」を、毎日唯一の楽しみとして熱心に聞かれていた方で「全財産を最も不幸な婦人のために贈りたい。一切を秋山ちえ子さんにお任せする。」との遺言によるものです。「麗しい話題」として、会堂と共に記念されることを願っています。

〈4〉かにたの山頂に移築された古民家「たちばな亭」は、秋山先生のお母様橘川八重様の「橘」を冠して命名されました。お亡くなりになる10日前に来訪され、ブルーシートでおおわれた木材に、「早く建てましょう」と嘆かれた、そのご遺志をくんで香花料が寄付されたものです。

(奉仕女・かにた婦人の村村長)

かにた婦人の村の近未来構想

―地域と共に歩む

―バリアフリーの施設を目指して―

大 沼 昭 彦

かにた作業所エマオと村の協同

かにた作業所エマオは、「①若い方を新しい施設にお迎えし共に生活する場の提供②障害のある方も無い方も共に働き、共に喜びの中に日々過ごすことが出来る場の提供③コロナー思想の実現のために、新しい事業展開の役割を果たす」の三つを目標に掲げて開設されました。

2014年6月の事業開始以来、2年を経過し、作業所に通う青年たちも増え、そのうちの一人は自立し、社会で働き始めたとのことです。

かにた婦人の村での行事や作業への参加を通して両施設の協同の営みが増えていることは大変嬉しいことです。

かにた婦人の村の新しい形

かにた婦人の村の中には陶芸、洗濯、

編物・裂織、製菓・製パン、農作業、手整理等の作業の他に、施設・村内の環境整備などの作業があります。

エマオに通っている方々が作業実習を通して適性を発見し、個性と特技を活かして、かにた婦人の村の職員として働ける方が現れることを願っています。

「障害はその人ではなく、周囲が作るものだ」という考えから、職場環境を整え、それ

ぞれの個性に応じて働く場を提供し、障害のある方の就労に成功している大手プラスチック成型会社の実践がテレビで放映されておりましたが、かにた婦人の村が真のバリアフリーの場として、障害のある方も無い方も共に働く理想郷として発展していければ創立者深津文雄の思いに近づくのではないかと思います。

近未来のかにた婦人の村

かにた問題検討委員会では、村人の高

齢化に対応し、集合型の生活棟を食堂下の南側の平地に建設することを考えています。



集約型建物の建設予定地。奥は現在の管理棟(右)と食堂(左)

この建物は管理棟・食堂・生活棟の他に地域交流スペースのある3階建の建物です。また現在利用中の居住棟2棟をほぼ同じ間取りで同じ場所に建て替え、更に食堂跡地にDV被害者の緊急避難施設・会議室・学習室・ゲストルームのある建物の建設を考えています。

今までの村の生活のスタイルを守りつつ、高齢化と時代のニーズにも適応できる施設運営を構想していますが、将来的には、村の中に高齢者や障害のある方々のグループホームなどが出来れば、かにた婦人の村の歴史と自然環境・人的資源を生かした総合的な施設ができ、まさにバリアフリーのコロナーが完成するのではないのでしょうか。

(社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家理事長)

6月23日の午後、桜庭歌子姉90歳の
祝いにホームを訪問。これからお誕生日
祝いをするところで、よろしかったらご
一緒に、とヘルパーさんも喜んで迎えて
くださいました。さる5月29日の家族会
の折の、右肩打撲による右手甲の目立っ
た腫れは半減していましたが、まだ充分
ではないようです。

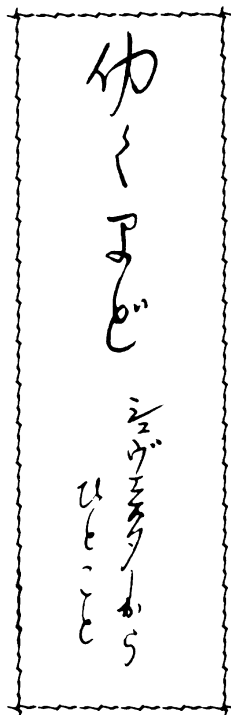
「わたしいくつになったかし
ら?」「丁度90よ」「そお91かと
思っていた」「一歳得したわね」と
笑い合いました。 訪問者・天羽

*

梅雨の季節に入って紫陽花の
花の色が美しくなりました。母
の家の庭は今年もブドウが沢山
実をつけ、柿や栗の花も、実りのときを
期待させています。

姉妹の中でいつも一番若いと云われて
いる私が、81才を迎えました。祈りの友
の皆様も、身体的に不調を覚えられるこ
とも多くなってくるのではないかと思います。
私は1ヶ月程前から、四十肩?の痛みで
通院治療を受けています。 小川 都代

日毎に肉体の衰えを感じるこの頃、介
護認定も要支援2になり、やさしい体操
だけのデイケアに週2回通うようになり
ました。おかげで買い物にも操姉の見舞
いにもどうにか歩いて行けています。いず
み寮にも、大泉ベテル教会の働きにも、
毎日見聞きしながら只祈るのみ。この様
な毎日に感謝しています。 眞山知恵子



大泉ベテル教会は四月一日から森田進
牧師をおむかえして新しい出発を始める。
礼拝のお話はわかりやすく、親しみやす
い方で良かったと思います。
私は人生の終りに「他者の良い所を探
す生活」をしたいと願っています。むづ
かしいことですが。 細井 陽子

*

新緑の美しい季節です
が、気温の差の大きい日
が続きます。皆様お一人
ひとり主の豊かな守りの
中に過されますように。
殊に健康に充分留意され
ご自愛下さいますよう祈
り上げます。 植木 道子

*

今年のお花見は4月16日。調布市の深
大寺へ行きました。ホームの車で行き先
方で車椅子に乗せて頂き、境内を散策い
たしました。桜は満開でみごとでした。
写真もたくさん撮って下さいました。
有名なおそばはおいしくて、おかわり
したかったのですが我慢しました。でも
満足な楽しい一日でした。感謝 山下 操

6月9、10日に大分県中津市で持たれ
た日本キリスト教社会事業同盟の総会・
研修会に参加。終了後、足を延ばして宮
崎県日向市へ。いずみ寮創立10年目の同
僚黒木八重子さんと再会。椎葉村のごこ
活躍の様子を、尽きないお話の中に、嬉
しく嬉しく伺いました。 天羽 道子

★評議員会・理事会の議事内容

第5回評議員会 2月13日 於いずみ寮

次の議案が報告・審議・承認議決された。

①各施設報告

②今後の評議員会・理事会の日程等

③平成27年度補正予算の件

第201回理事会 2月13日 於いずみ寮

次の議案が審議・承認議決された。

①平成27年度補正予算の件、

第6回評議員会 3月12日 於いずみ寮、

次の議案が承認議決された。

①平成28年度事業計画並びに資金収支

予算案の件

第202回理事会 3月12日 於いずみ寮

次の議案が承認議決された。

①平成28年度事業計画並びに資金収支

予算の件

②今後の監査、決算評議員会・理事会

の日程について

第7回評議員会 5月28日 於いずみ寮

次の議案が承認議決され理事会へ回付。

①平成27年度事業報告並びに決算報告

案の件

第203回理事会 5月28日 於いずみ寮

次の議案が承認議決された。

①平成27年度事業報告並びに決算報告、

内部監査報告

②茂呂塾保育園・園舎B棟改修工事入

札の件

③かいたた婦人の村・建替えの件

第204回理事会 6月5日(日曜日)

於いずみ寮：任期満了のため：

次の議案が承認議決された。

①評議員の選任並びに任期の件

第8回評議員会 6月5日 於いずみ寮

次の議案が承認議決された。

①理事・監事選任の件

第205回理事会 6月5日 於いずみ寮

次の議案が承認議決された。

①理事長選任の件

②常任理事指名の件

③理事長職務代理の件

法人のホームページで、

事業報告・会計報告・理事と

評議員名簿がご覧になれます。

NCC宗教改革500年記念

カントウス・カヌム コンサート

4月29日、かいたた婦人の村の会堂で、

ドイツ北部の小さな村カヌムの合唱団と、

かいたた近隣の合唱団2グループの合同

チャリティーコンサートが開かれました。

170名余の参加があり、大盛況でした。

「カヌムの皆さんが奏でる讚美歌が、

かいたたの自然（鳥の声が会堂内でも良く

聞こえていました）に溶け込んで、自分

は今何処にいるんだろうという不思議な

感覚になるような癒しの時間をもらいま

した。」（五十嵐逸美 法人ホームページ

「かいたた告知板」より）

最後に、かいたた婦人の村の村人たちが
ステージに上がり、お礼に「やすらぎの

いえ」とドイツのコ

ラール「そとはあか

るくて」を堂々と歌

い、大きな拍手をい

いただきました。

入場料はすべて

かいたたに寄付され、

感謝です。



賛助金・献金

ありがとうございます

(4～6月分)

横田碩子、五十嵐順子、吉村知子
佐藤元紀、村田充子、丸山紀久子
ベテスダ姉妹会、本間士郎、酒井
忍、嘉陽宗精、中村由紀子・八重
広瀬公男、浅野康子、大和キリス
ト教会支援委員会、渡辺茂子、吉
田実生、大橋直代、余郷志津子、
森戸隆夫、鎌倉雪ノ下教会、和田
哲政、田浦教会エレミヤ会、吉田
やす子、藤巻契司

(敬称略)

★訃報

しばらく床に臥せておられたエリーザ
ベット・フヨリンガー姉が、7月10日に
天に召されたとお知らせが、たった今、
ドイツより届きました。90歳でした。永
遠の平安をお祈りいたします。

エリーザベット姉訪問記は、281号

(伊藤瑞男)(12頁・天羽道子)、282号
(大沼昭彦)、283号(塩川成子)に掲
載されています。

★大泉ベテル教会に新しい牧師就任

4月より伊藤瑞男牧師に代って、森田
進牧師が就任されました。文学と神学を
学ばれ、教文館や日本キリスト教団の出
版局を経て、この24年間は恵泉女学園大
学教授を務められた方です。

牧師紹介とこれまでの説教要旨は、法
人のホームページで見ることができます。



★ベテスダの日のお知らせ

今年はかきた婦人の村で開催いたしま
す。村人たちは、「今年のベテスダの日
は、かきたでするんでしょう?」と、皆
さまのおいでを楽しみに待っています。
遠くになりますが、お誘い合わせて、ど
うぞお出かけください。

日時 9月22日(木) 秋分の日

11時～16時

会場 館山市大賀 かきた婦人の村

電話 0470-22-2280

改めてご案内をお送りいたします。

★編集後記

3月31日「社会福祉法等の一部を改正
する法律」が国会において可決・成立し
ました。本来の事業を継続・発展させる
ことは勿論のこと、地域にどのように貢
献していくのが問われ、法人に対しこ
れまで以上に運営への真摯な取り組み方
が求められています。(佐藤 元紀)

2016年7月15日発行

発行人 大沼 昭彦

編集責任者 佐藤 元紀

印刷所 (株)印刷センター

発行所(年3回発行)

〒178-0061

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスダ奉仕女母の家

<http://www.bethesda-dmh.org/>